



体だけでなく心にも寄り添う、美しさのある看護を。



愛知県に2施設ある基幹災害医療センターのひとつであり、特定機能病院をはじめ数々の機能を有する藤田医科大学病院。単一の病院としては国内最多の病床数を誇るこちらの病院で採用していただいているアシックスのシューズについて、副院長・看護部長を務めておられる眞野さんに、お話を伺いました。



動きまわる仕事だから、シューズ選びは大切。

アシックスのシューズを選ばれたポイントを、教えていただけますか？

2社から納入されるシューズのうち、個人がどちらか好きなほうを選ぶのですが、私はアシックスを履いています。土踏まずのアーチが盛り上がり、気持ちが良いですし、しっかりフィットするのでかかとが浮いたり、滑ったりすることはありません。1日中履くものなのでどうしても臭いなどが気になりますが、中敷が洗えてメンテナンスできるのも良いですね。なにより履いていて、足への負担が少ないところが気に入っています。動きまわる仕事ですから、これは本当に助かります。

実際にアシックスシューズを履いて、実感された事はありますか？

履き心地や動きやすさはもちろんですが、デザインも気に入っています。例えば履き心地が良くても見た目が好みではないシューズだと気持ちも沈んでしまいます。アシックスシューズは白衣とコーディネートした時、主張しすぎず美しくまとめてくれる点で、機能性とデザイン性に優れていて、ブランドとしての力を感じます。

みなさんに取材させていただいた際にも、うれしいご意見をいただきました。

スタッフからは「グリップ力があり、シャワー場など濡れる場所でも滑りにくい」「フィット感があるので、履き心地が軽くなる」「土踏まずがホールドされて、安定感がある」「スタイリッシュでかっこいい」などの良い反応が多いです。実は私自身、プライベートでもアシックスのシューズを愛用しています。良いものは長く履けるので、コストパフォーマンスも良いですね。

看護部だけで、1600名の方が働いておられると伺いました。そのトップである看護部長として、眞野さんが心がけておられることを教えてください。

「目配り、気配り、心配り」を大切にしています。若いスタッフともアサーティブなコミュニケーションをとり、現場のやる気を引き出していくのが仕事だと思っています。トップダウンではなく、ボトムアップで組織が回っていくのが理想ですね。そのために、看護部長室でスタッフとランチをとる機会を作っています。

現場のスタッフの方と、直接お話になるんですね。

自由に話せる場として「リップランチ」と呼んでいるのですが、病棟ごとに5~6名が参加します。事前に自分たちの病棟の強みと弱みをまとめてもらうのですが、ランチに来たときに、その病棟の雰囲気やすぐわかりますね。看護長からの報告だけでは把握しきれないことも、直接話すことで明確になります。スタッフたちも、普段は忙しくてディスカッションする時間がないので、満足度は高いと思います。ランチの後にお薬子を



現場のやる気を引き出し、人を育てるマネジメント。

用意しているのも、それも楽しみのひとつのようです(笑)。

まさに、ボトムアップを意識された取り組みですね。

実は病院長も最近、研修医とリップランチをするようになりました。やはり、人を育てることが大切ですね。私は附属の看護専門学校で15年教壇に立っていましたし、こちらに来てからも教育科長をしていましたので、人材育成の重要性は感じています。

教育や育成の大切さを実感されたエピソードがありましたら、お聞かせください。

入院中の患者さんが一時退院して、娘さんの結婚式に参列されたことがありました。その際に病棟のナースたちが、医療的な準備はもちろん、散髪の手配などとても細やかに進めてくれました。その患者さんは当日、花嫁の父として車椅子でパーজনロードを歩くことができました。またNCUに幼いお子さんが入られた際も、辛い思いをされているお母さんの気持ちに丁寧な寄り添ってくれたんです。救急救命センターで

あっても通り一遍の看護ではなく、ナース一人ひとりが患者さんとご家族に心を込めて対応してくれたことが、非常に印象に残っています。

毎日多くの患者さんをみられると思うのですが、体だけでなく、心にも寄り添っておられるんですね。では最後に、未来を担う後輩たちへのメッセージをお願いします。

これからを担う若い人たちは、「根拠に基づいた、美しさのある看護」を実践してほしいですね。それが、当院の目指す看護だと思います。

施設の規模も担う役割も非常に大きいこちらの病院で、看護師のみならずの足もとを支えることができていることが、私たちも、これからは現場のご意見に耳を傾けながら、よりよい製品づくりを目指し続けたいと思います。